

## 第 13 回 (7/9) 流行現象と社会変動 ——モードの社会的構築

### 1. BBS 投稿から

「講義を聞いて、「服を着るとその服に見あった行動をするようになる」とどこかで聞いたことを思い出した。着物を着ると姿勢がよくなり動作がゆったりしたりするのは、服そのもののつくりだけでなく制度化された文化的コードが関係しているのだと気付けた。反対に、制服を着崩した明るい髪色の不良が清掃活動するなど、服のイメージと着ている人の中身が異なっている場合には文化的コードはどのように作用していくのだろうか。」

「無意識に生活している中に相互作用が関与していることがわかった。自己決定していると思っている事でも、どこかで他者の意見や他者からどう思われているのかという感情が働いていると私も再確認できた。」

「自分が思っている自己と他者から見た自分のイメージは、自分では気がつかない面もあって「確かに私はそういう人かもしれない」と気づかされることもあるんだと思った。」

「アイデンティティは本質主義的なものよりも、構築主義的なものが多いと知った。改めて考えると、自分の性格などについて考える時は他者から言われた自分の印象をもとにしていると思った。」

「講義を聞いて、相互作用によって自己が形成されるのを改めて発見することが出来た。また、自分と他人との意見は全く違い、他人からの意見はとても大事だと感じた。」

「自分のことを自分で分かったと思っていたが他者からの意見とは違ったので他者の意見は大切だと思いました。」

「自己(主観的アイデンティティ)にある「わたしってこんな人」とあるが、私について改めて考えると他者からみた場合の「わたし」と違ったので、他者の意見を大事にしたいと感じた。」

「自己は、異なる他者との間で複数のアイデンティティを見出す事で自分自身では分からなかった新たな一面を見つけることが出来るだろう。また私自身から見た私と他者から見た私とのズレを少しでも直すためには主観的アイデンティティと他者とのバランスを取らなくてはいけないなと思った。」

「私は普段着る服や食べ物などの好みが変わることが多いが、その理由として鏡像自我が自己に大きな影響を与えており、その他者の評価に対して自己を再解釈しているのではないかと思った。」

「アイデンティティは自己理解だけで作り上げられるのではなく、他者との関わりやメディアとなる衣服・身体を通じて見出されていくのだと知った。ファッションは自己を表現するだけでなく、一種のコミュニケーションツールにもなりうる様々な機能を持つものなんだなと思った。」

「自分が思っている自分の像と、他人からの自分はかなり違うんだろうなと、驚きを感じた。毎日身につける衣服にも、私は日々の気持ちが出ていると思う。自分はコーディネートに気が済まないし家を出たくない、気分が下がる、早く帰りたい。すら思うことがある。よって私にとって衣服はシンボリック的存在であると感じた。」

「アイデンティティは、「わたし」が思う自己と、「他者」が思う私の相互作用によって確立される。ファッションは、そのアイデンティティを演出したり具体化する事が出来、それを他者との相互に解釈し合うことで、他者を認識しつつ自分の個性を指定していくことが出来る。流行に流されない人は、アイデンティティが特に確立している人だと思った」

ほか多数

## 過去の投稿から

「今日の授業で、こういう格好はこういう時に着るという常識のような、人々に共有された意識があることを知った。そこで、私はシャネルが発表した服はほとんど、それまでの常識を覆す衣服であったことを思い出した。カーディガンスーツアンサンブルは元々男性用だったカーディガンで女性用のスーツアンサンブルを作った。またリトルブラックドレスは黒といえば喪服のイメージなのにあえて黒を使っている。それまでの人々の常識を覆す物を作り出すことが新しい流行を産むのだと思う。」

「自分がレジを打っている時、お客さんがイヤホンをしていると、決していい気持ちにはなりません。先生がおっしゃっていた片耳を外してコミュニケーションを取ろうとしてくれる姿勢を見せることが 1 番スマートな対応だとわたしも思います。しかし、イヤホンをしていなくても、一見スムーズにコミュニケーションを取るように思っても、コミュニケーションを取る気がないお客さんもいます。わたしのアルバイト先はお客さんと店員との会話や関わりが多い方なので、お客さんがイヤホンをするなどといった“人との関わりを遮断したい”というアピールをしてくれるとその人の求める接客がわかりやすく、有難いと思えることもあります。イヤホンをするなどといった一見ただの非常識な行為も、自分の“キャラクター”をアピールする手段の 1 つになっているかもしれません。」

「自分の考える自分像と相手から見た自分像は共通する部分もあったが、こんな風に思われていたのかと意外な部分もあって新鮮だった。自己だけでなく他者が存在してアイデンティティは生まれるものだとわかった。」

「今回「わたしってこんな人」という質問に自分で答え、相手にも答えてもらいましたが、自分と相手は答えが違っているのに驚きました。「わたし」とはこういう人間であるという自分自身についての自己理解がありましたが、他者から見た「わたし」は自分では思いつかないような解答ばかりだったので、他者がいなければ一面的なアイデンティティに過ぎないのだと考えました。自分自身についても理解し、他者という鏡に映った自分の意味も解釈することで新たなアイデンティティが生まれるのだと思いました。」

「ペアの人に教えてもらった私のアイデンティティは自分で思うアイデンティティとは少し違っていましたが、他者から見た場合の私も私の一部であることが分かったし、〈アイデンティティについての構築主義的理解〉にある「自己・他者間の相互作用によって自己が発見されていく」ということが理解できました。」

「前回のモード操作とアイデンティティ衣服と身体の授業で、他者という鏡に映った自己の意味を解釈することを通じて見出される自己 - 他者間の相互作用によって自己が発見されていくというところで、確かにそうだなと感じた。他人から自分でわからないところを言われて初めて発見できる自分あるもんなと思った。」

「「わたしってこんな人」をやることによって、他者からみた場合の「わたし」を知り、自分の新しい一面に気がつくことができ面白かったです。また、高校や大学へ行ってから雰囲気が変わった人達を沢山みてきて、一体何があったんだろうと疑問に思うことがありました。しかし、それはその人が今まで気付かなかった、元々持っていた自分のアイデンティティであり、それが他者との相互作用を通じて流動的に変わっていったんだと納得しました。」

「今回の授業では、「わたしってこんな人」についてたくさんのお話をされていました。そこで、お友達と自分はどんな人なんだろう？相手からはどう思われているのだろう？と、改めて考えさせられる機会が出来て、とてもためになりました。自分が思っている自分と相手思う自分は、多少異なり、そんな違う考え方ができることは、むしろ将来に無限大の可能性を秘めているんだと私自身感じました。たくさんの方の考え方、捉え方によって、現代は成り立っているんだと考えました。」

「前回講義の「メディアとしての衣服、身体」の項目で「他者との社会的相互作用によってアイデンティティが構築される」と聞いて、まさにその通り、私たちは自分らしい衣服や身のこなしを「他人の評価」を通じて体得していると思いました。たとえば友人から「その色似合うね」「前の髪型のがよかった」などと言われると、他人の評価寄りに改善しようと思ったり、「私ってそんなイメージがあるんだ」と再認識したり、そのイメージが不満

だとそれを覆そうとします。つまり、アイデンティティ形成とは「鏡像自我から受けた自己イメージの解釈、修正」の循環のことなのですね。」

「普段何気なく、シンボルとしての衣服や身体の意味を解読していることがあるなと感じました。例えば、友達が普段よりも派手な服を着ていたり、化粧をしていたりすると、今日はこの後予定があるのかなと感じたりする事もシンボルとしての衣服や身体の意味を解読しているのかなと思いました。」

「メディアとしての衣服・身体について、「衣服や身体は、自己と他者の双方に対してメッセージを発しそのメッセージの意味解釈を要請するシンボル」として機能するということに共感を得ました。言葉に発しなくても他者の衣服などで、その他者に興味を抱き、例えば、この人はこんな人だろうと他者のアイデンティティを認識したり、普段生活してある事ではないかと感じます。そしてその他者もこのようなプロセスで人を認識・解釈しているならば、これは互いに相互作用していることとなり、また、間接的なコミュニケーションが行われることになるのではないかと思います。」

「衣服・身体メディアによるシンボル交換のプロセスの流れを見て、言葉で表されていると難解な気もしますが、私たちは自然と行っている事であり、納得する部分が多くありました。また、その当たり前に行っている事を文字にすることは、とても意味あることで、講義も終盤ですが、初回から学んできたことが繋がったりするため、とてもおもしろいです。」

## 2. メディアとしての衣服・身体 （前回の復習）

- 衣服や身体は、自己と他者の双方に対してメッセージを発し、そのメッセージの意味解釈を要請するシンボルとして機能する
- 自己と他者は、シンボルとしての衣服や身体への相互的な意味解釈をつうじて、他者の存在様式を認識しつつ、同時に、自己のアイデンティティを措定していく

アイデンティティは他者との社会的相互作用を通じて措定される

↓

- 衣服や身体は、（シンボリック機能を通じて）アイデンティティを構築していくための戦略的な媒介手段（メディア）となりうる
- 自己と他者は、衣服と身体のパターン操作を相互に展開している

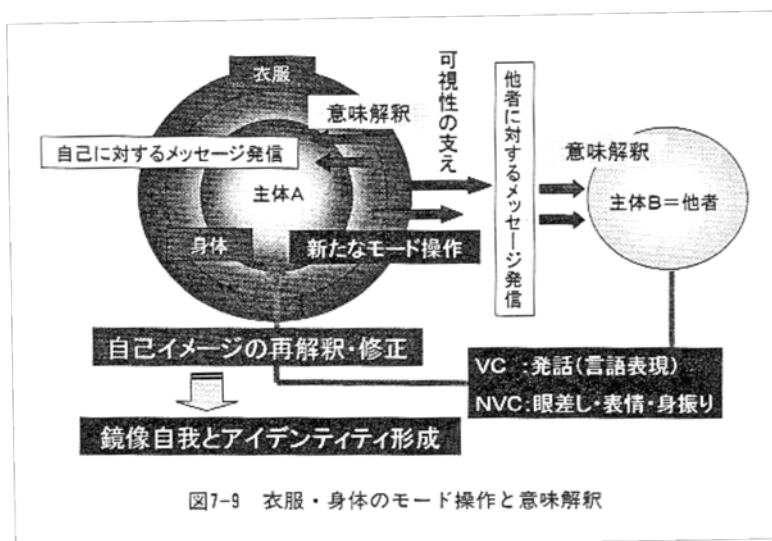


図7-9 衣服・身体のパターン操作と意味解釈

### 3. 衣服・身体と文化的コード

「制度化された文化的コード」としての衣服・身体

「コード」＝

「制度化」＝

衣服・身体メディアによるシンボル交換のプロセス

■

↓

■

↓

■

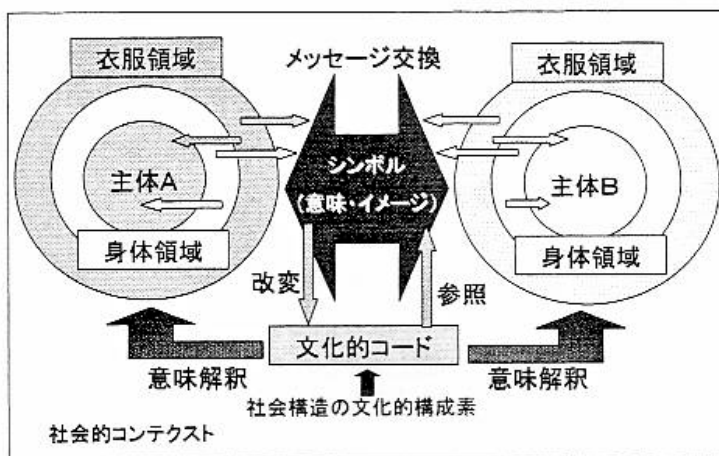


図7-10 衣服・身体とシンボル交換

文化的コード（としての衣服・身体）→ 「社会的（集団）カテゴリー」

ex. 特定のモードを採用する個人や集団

〇〇系、〇〇世代、〇〇族…

個人：採用すべきモードの選択

社会的カテゴリーが「準拠集団」に

復習) 「準拠集団」

ex. 理想的自我や自己イメージの確保

他者からの威光・威信の獲得

自己に対する否定的評価（嘲笑や嫉妬、敵愾心）をもたらす集団からの回避

ex. ファッション・モデル、アイドル、ヒーロー、カリスマ的人物…

＝ 準拠すべき世界に属する理想的なモードの提示者

#### 4. 今回のテーマ・ポイント

- 流行現象をとりまく社会的背景
- 流行現象に関与するさまざまな主体・セクタ
- 文化変動をめぐるポリティクス

#### 5. 流行現象をとりまく社会構造

歴史的・文化的背景や社会的文脈

- 社会的トレンド：
- 社会の構造的条件： 制度や秩序…

いくつかの例

- 
- 
- 
- 
- 
- 

#### 6. モード操作の関与主体

異なるレベルの単位： 個人、集団・組織、複数の集団群

セクタ（主体）間での相互作用（モードの創造と社会的受容）

- モードを創出・提示するセクタ
- 伝達・評価するセクタ
- 採用／破棄を促進するセクタ
- セクタ間の調整や統制を遂行するセクタ

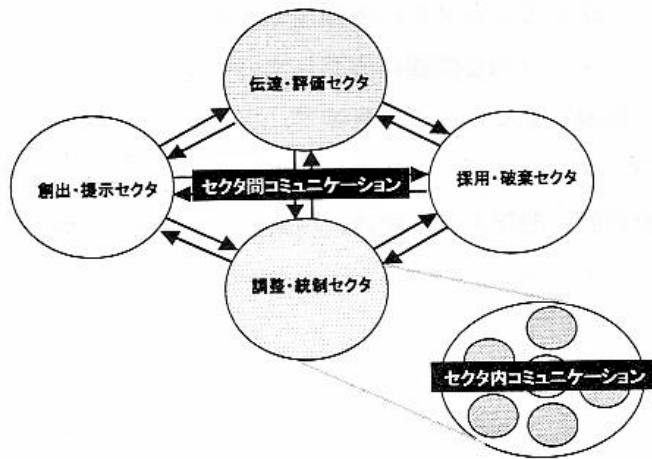


図7-11 モードの社会的構築

例) 流行関連産業

- ① 生産・流通・販売企業
- ② 消費者
- ③ 報道・宣伝・企画・イベント会社
- ④ 業界団体（同業者組合）
- ⑤ 圧力団体
- ⑥ 消費者運動・市民活動団体
- ⑦ 人材育成機関（デザイン学校など）
- ⑧ 研究機関・シンクタンク
- ⑨ 行政機関
- ⑩ 公益団体…

## 7. モード操作と文化的コード： マクロ的機能（再掲）

- ・ アイテムのシンボルの意味は流動的で複数のなもの
- ・ 社会的に共有化されている「既存のモード」が、社会成員に対して、アイテムの公式な読み取り方や参照すべき「文化的コード」として機能する

「日常生活において個人は、それら文化的コードを参照しつつ、アイテムの共有化された意味を慣習的に読み取っている限りで、それらの個人間での意味解釈が大きく食い違う危険性は回避されよう。」

- ・ 文化的コードに準拠する意味解釈の日常的実践 → 文化秩序の維持・強化、再生産

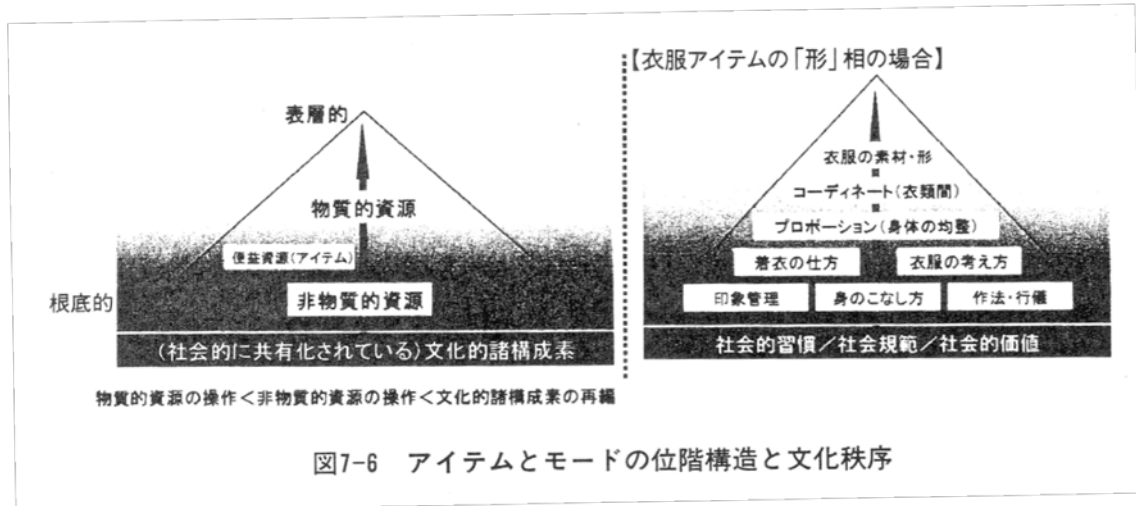
↓

<社会成員によるモードの集合的操作>

- \* 既存のモード体系を改変・創造する集合的営為
- \* 文化的コードの改変と文化秩序の再編を促進する社会変革力

たんにアイテム（ファッション、モノ、グッズ、音楽…）の流行のレベルだけにとどまらない

cf. その変革力は、モード操作の対象となるアイテムが文化秩序の根幹に触れるものほど、インパクト大



## 8. 流行現象と文化変動

モードの集合的操作 → 文化秩序を再編する社会変革力

文化変動をめぐるポリティクス

- 下位文化（サブ・カルチャー）・対抗文化（カウンター・カルチャー）
- グローバル化
- 文化多元主義（正統的文化の尊重）

cf. サブ・カルチャー

- 
- 

支配的文化と対抗文化間での覇権  
サブ・カルチャー間での主導権競争  
グローバリズムと文化多元主義との拮抗

シンボルの意味解釈をめぐるポリティクス

## 9. 参考文献

- 田中淳・土屋淳二、2003、『集合行動の社会心理学』北樹出版、第7章  
仲川秀樹、2002、『サブカルチャー社会学』学陽書房

## 10. 次回の予告

7 月 16 日 広告とマーケティング

以 上

【授業 HP】 <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

【BBS】 <http://9113.teacup.com/tenomoto3/bbs>



# 「制度化された文化的コード」

「制度化された文化的コード」としての衣服・身体

- 「コード」

- = 秩序、決まり、ルール

- 「制度化」

- = 多くのメンバーに共有され定番化している

# 衣服・身体メディアによる シンボル交換のプロセス

- 自己と他者は、「制度化された」文化的コードを可能な限り参照

↓ シンボル提示

- シンボルとしての衣服や身体の意味を解読

↓ お互いにモード解釈

- 自己や他者の在り方を把握

⇒社会的(集団)カテゴリーを形成  
(することもある)

# 流行現象をとりまく社会構造

歴史的・文化的背景や社会的文脈

- 社会的トレンド:

- 近代化・産業化、消費社会、高度情報化社会...

- 社会の構造的条件:

- 制度や秩序...